



Lead Isotope Analysis of Bronze Tools Unearthed from the Lang Vac Sites, Vietnam

今村啓爾

- ①ランヴァク遺跡
- ②ドンソン文化とそのなかでの位置付け
- ③ランヴァク資料の分析結果
- ④南中国における銅鼓の鉛同位体分析
- ⑤鉛同位体分析に期待するもの



ランヴァク遺跡は、ベトナムのゲアン省に所在するドンソン文化期、紀元前1～2世紀頃の遺跡である。この時代は、ちょうど日本の弥生時代のように、個性的な青銅器が発達し、鉄器の製作、使用も開始され、稲作を基礎とした社会が国家形成に向けて大きな変化を見せた時代である。1990～1991年ベトナム日本共同調査隊が行った発掘調査では、現在水田となっている谷をはさんで、東側の墓地遺跡（ランヴァク地点）と西側の集落址（ソムディン地点）が調査された。青銅器との関連で重要なことは、墓地遺跡で砂岩製の斧の鋳型が出土し、集落址では鋳型片や溶けた青銅の付着した土器から青銅器鋳造に使われたとみられる炉址が発見されたことである。ランヴァク遺跡はドンソン文化の広がりの中なかではかなり南に位置し、ベトナム北部、中国南部ばかりでなく、ベトナム中・南部のサフィン文化やタイのバンチェン文化など周辺の広い地域との関連が見られる。

ベトナムではこれまで鉛同位体の分析がおこなわれたことを聞かないが、今回のランヴァク資料の分析結果は、中国最南部の雲南や広西産の鉛の同位体比の範囲内に入るものであった。このことはランヴァクの青銅器が華南の原料で鋳造されたことを意味するかのごとくであるが、すぐにそう結論することはできない。中国のこの地域の青銅器については、主に戦国時代以後の銅鼓が鉛同位体分析の対象にとりあげられているが、その結果をみると、華北や四川省の殷周時代の青銅器とは異なり、地元の鉛との一致の傾向が顕著である。同じ状況がベトナムの青銅器についても当てはまるのかもしれない。ベトナム産鉛の同位体比の確認が緊急の課題である。

今後南中国から東南アジア全体におよぶ広大な地域において青銅器原料の供給地と鋳造地の関係が解明されるなら、東南アジアにおける高文化の形成過程の理解について、大きな前進となる。